

平成27年度 第2回 坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日時	平成28年3月15日(火) 午後7時～
場所	坂井市役所 多目的研修センター 円卓会議室
参加者	石川会長 高尾副会長 谷川委員 米元委員 大坂委員 多田委員 田中委員 事務局：高嶋部長 武田課長 三上参事 井上課長補佐 島津課長補佐
協議事項	(1) 平成27年度「坂井市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について
資料	資料1 H27計画進捗状況一覧 資料2 H27計画進捗状況点検・評価表(量の見込みと確保の内容) 資料3 - (1～8) H27計画進捗状況点検・評価表(基本施策)

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議題

会長：議事に入る前に、出席委員の確認を行いたい。現在、委員12名のうち、7名の委員が出席ということで過半数の出席をいただいている。傍聴人はいないか。

事務局：いない。

会長：議事ごとに質問の機会を設けたいと思う。

(1) 平成27年度「坂井市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について

<事務局より資料1「H27計画進捗状況一覧」にもとづき説明>

ア. 量の見込み及び確保の内容について

<事務局より資料2「H27計画進捗状況点検・評価表(量の見込みと確保の内容)」にもとづき説明>

会長：資料1と資料2についてご説明いただいた。なかなか評価をどういう視点からするか大変難しいところであるが、先ほどの説明のとおり、担当者の主観も交えた評価だということであるし、プラスだからマイナスだからといって、○がついたり×がついたりということでもないということであるので、どこに定めて評価をするかは確かに難しいところではあるが、概ね達成・ほぼ達成というところで、今回の評価がなされていたかと思う。ここまでの説明のところ、委員のみなさまからご意見やご質問をいただきたいと思うがいかがか。

委員：質問というより感想だが、去年私が何度も申し上げたように、同じ坂井市の子ども達で、地域で旧町によるサービスの格差がないようにしてほしいということで、気にしていた幼稚園における一時預かりとか、病児・病後児保育について、全市の中で同じサービスを受けられるようになったということで、私の感想からすれば、一番気にしていた部分が2つともクリアされたということで◎としたい。それと、もう1つは学童（クラブ）ですが、3年生以降についても受入すると市がおっしゃってくださり、私としても自分で（学童クラブを）やっていて、高学年の子が急激に増えるのではないかと予想していたが、ふたをあけてみると、意外と希望者が少なかったので、キャパシティ的に入れない人が出るのではないかと思ったが、実際に受入れてみると、高学年で来る子は障がいを持った子が多い。そういうことを考えると、たとえ希望者は少なくても、この枠についてはぜひ確保していただきたい。子どもの教育の環境とか、虐待とかの防止にもなるし、ぜひ枠は確保していただきたい。もう1点は、自分の感覚としては、0歳とか1・2歳児とか、自分のところでは入りきれていないという環境もあるので、市全体でみれば希望された方がどこかの保育園に入れるということは確保していただいているのだとは思いますが、小さい子が遠くの保育園に行かなくてはならない方も、自分のところでは見受けられるので、そういう格差・地域差、地域の中で数字が◎だからといって安心せずに、なお一層細かく、できたら小さい子達は近くの保育園が利用できるように、何らかの配慮をしていただくと、ありがたいと感じている。以上、私としては課題が解決できて、◎をつけてもらって結構であると、この1年で感じている。

会長：私も、ちょっとそのところが気になったところで、量としての確保はできているけれども、必ずしも希望のところに入れなかった人はいるということ、そこをどういう風にこれから受入を可能にするかというところだ。

事務局：委員からおっしゃっていただいた放課後児童（クラブ）に関しては、6年生まで受入するというので、調整させていただいた。夏休みに現場をずっと回らせていただいたが、やはり高学年の子どもが入ってくると、非常にこれまでと違った環境になっているということで、現場はものすごく大変だったりという印象を持っている。特に、低学年と高学年では、運動量が全然違うので、低学年の方が高学年につられて、すごく運動量が多くなって、夕方になると疲れてしまったという状況も実際にあると聞いているので、

受入はできたがやはり環境整備を今後とも進めていく必要があると考えているので、評価はいただいたが、やはり課題も残っているという印象であるので、課題解決に向けて進んでいきたいと思っている。そして、やはり希望する保育園に入れなかったということも実際にあった。それと、やはり途中入所等に関しては、保育士の数の問題とか施設の規模の問題等があるので、非常に課題もあると思っている。できるだけ対応していききたいと思っている。繰り返しになるが、保育士の確保であるとか場所の問題など、いろいろ課題があると思っているので、こちらとしても丁寧に対応させていただきながら、できるだけご希望に添えるような保育を進めていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

会長：他はいかがか。

委員：うちの保育所なんかも、人数的には途中入所が多いが、その年（1年）我慢すれば、次の年は近くの保育園の希望したところに行けるということは聞いているので、まだいいかなと思っている。少しだけ我慢すれば、次の年は、地元の希望したところに、だいたいみなさん希望通りに入れているのでいいと思う。

事務局：地域ごとに、若干子どもの数の違いであったりとか、ニーズの違いであったりとかが出てきているので、例えば、施設を拡大していくとかいうこともなかなか難しい部分もある。全体でいくと、充足数に達しているが、地区ごとに若干子どもの数であったりとか、保護者の方の希望であったりとかが変わってきているところがあるので、繰り返しになるが丁寧に対応していきたい。

委員：放課後児童クラブを、幼稚園から上がる子どもも、今3年生になる子どもとで利用させてもらう（春江東ひまわり児童クラブ）のだが、今回案内がきて、場所が2か所になるということのを伺って、説明を受けた時に民家ということをお伺いして、なんか不安を感じたところも正直ある。以上児だから、兄弟だからいっしょなところというわけにもいかないのかもしれないが、小学校が隣に併設していて、廊下でつながっているのに、なんか施設をうまく利用できないのかという意見を聞いたり、家に持って帰って話をしたりすると、不安を感じるのが親なのかなと思う。預かっていただくのはとてもありがたいし助かるが、親の目線からすると、朝やっぱり入れたりとか、帰りに2か所に迎えにいかなければならぬとなると、（お迎えが）ぎりぎりのお母さんは本当に慌てるのではないかと思う。そういうところも、連携できるといいのではないかと思う。今回は、人数がとても多いとお伺いしているので（仕方ないのか）。

事務局：そのことで、春江東小学校のクラブだと思うが、クラブの子がかなり増えて、学校の教室を借りてやっていたところもあるが、クラブの先生と学校の先生と話を見ると、年間で何日も（教室を）使えない時がある。そうなった時に、これだけの人数がいると、な

なかなか通常のクラブ室では賄いきれないということで、学校の近くに、たまたま民家を借りることができたので、そこで高学年の子どもをみることになった。ただ、夏休み・冬休み・春休みの長期休暇については、学校でまとめて（受入）させていただくということで、学校側とも協議して、学校には体育館もあるので、大きい子どもも体育館で遊ぶことができると思っている。通常の4～6時までの間は、委員さんがおっしゃるように、空き家の方で宿題をしたり、庭はあるが大きい子どもが遊べるほどのスペースではないので、そのへんはご迷惑をかけることもあるが、よろしくお願ひしたい。クラブも今は充足しているが、去年は全体で1250名の受入だったが、28年度の4月は1462名という数になり、200名以上全体で増えているので、今充足しているのがいつまで持つかというのが正直な感想である。実際、1～3年生の（受入）数字を子どもの数と比較すると、三国・坂井地区は5割を超えており、半分以上の子どもがクラブに来ている。丸岡・春江地区が42～3%で、これが増えていくと場所を確保していかないといけないということになるし、高尾委員もおっしゃっていたが、6年生が、私達も17%ぐらい来るのかと思っていたが、全体の11%ぐらいで収まっているということで、少し言葉は悪いが助かっている部分はあると思う。これも将来増えていく要素は多々あるので、場所の確保を学校側と協議しながら確保していきたいと思っている。とにかく、28年度は何とか6年生まで全部受入できて、場所も確保できたと思っている。ただ、（中には）厳しいクラブもあるので、子どもにあまり影響が出ないような運営のやり方を考えて、現場をやっていききたいと思っている。

事務局：説明させていただいたように、今回の春江東（児童クラブ）については、本当に場所が無いということで、空き家を貸していただいて対応させていただいた。当然、今後教育委員会ともいろいろ調整しながら、学校を貸していただくということと、もう1つは、各コミセンの耐震化を図っていかねばいけないという方向もあって、例えばコミセンの中にそういった機能を持ってもらうといったことも、今後考えていく必要があるのかと考えているし、28年度の予算の中で、空き家の利活用ということで、例えば空き家を改修した時に、そういう目的で使っていただく場合には、市としても補助していくということも含めて、なかなか学校だけですべて解決するとか、あるいは、今既存の施設だけで解決するということは、少々無理があると思っているので、やはり場所の確保については少し方向性を広げて考えていきたい。とにかく、まず6年生まで受け入れるということが大前提でずっと動いている部分もあるので、保護者の方にはご心配とかご不満もあると思うが、とにかく受入できるものは受入していきたいということで整理させていただきたい。

委員：空き家にはどんな補助をしてくれるのか。

事務局：今回の空き家は、市の方が確保したものである。民間の保育園がやっていただくような場合は、改造の費用とかが出る場合もあるし、状況によって、対応は変わってくると思

うが、経費については制度の中でということにはなるが支援させていただいて、市が直接やる場合と、民間の方の協力でやる場合も含めて少しでも拡充できるように努めていきたいと思っている。委員の中でもそういう話があったら、声掛けしていただければ、できるだけ対応していきたいと考えている。

事務局：空き家の対策として、例えば高齢者の方が集う場所であるとか、子どもが集う場所の確保ということで、少し金額を出しながら、市としても、例えばまち協（まちづくり協議会）に対しての支援をしていくとか、地区に対しての支援をさせていただくという方向を出させていただいている。ただ、要綱をいったん作っているが、予算措置は少し遅れると思うが、方向としてはそういうことも含めて、地域で子どもの（集う）場所を確保していくとか、高齢者の（集う）場所を確保していくという方向を少し出していきたいと思っている。

委員：お願いします。

会長：もう1つ、放課後児童クラブで子どもが増えるのはいいが、その対応する職員は確保できているのか。児童厚生員も含めてどうか。

事務局：一応、確保できているというか、なかなか難しいが、こちらもいつも募集をかけているような状況だが、国の基準から比較すると、坂井市はかなりいい配置はさせてもらっている。例えば、国の基準だと40名一単位で指導員2人というのが国の基準だが、坂井市だと以前から40名で最低3人は必ずいるし、場所によっては、子どもの状況にもよるが、気がかりな子どもがいると4～5人と配置させていただいているところもある。最低3人は、40名単位では配置させていただいている状況である。ただ、会長がおっしゃったように、保育士と同様、なかなかクラブの時間帯で、月給というシステムは構築しづらく時給になってしまうところで、午後2時から6時まで、それも延長で6時半まで時給いくら（の募集）でなかなか集められないという中で、今言ったような人数は確保させていただいている。今後ともいい指導員の確保に向けて努めていきたいと考えている。

会長：ぜひお願いしたい。他はいかがか。何かお気づきの点があればお願いしたい。

会長：6ページの健康増進課の所管の妊婦健診とか乳幼児全戸訪問とか、少し実績と見込みの数字の差が出たようだが、これは出来ているという評価か。

事務局：はい。

委員：単純な質問だが、延長保育だが579人を見込んであるが、これだけ増えたということは、

それだけ要望があるということだろう。

事務局：そういうことだ。

委員：そうすると、また増える可能性もあるということか。

事務局：ある。

委員：それは保育所の職員が対応していくのか。

事務局：はい。

委員：(職員から) 不満が出てこないのか。

事務局：そこは、本当に時差(出勤)で、基本的には事前に申し込んでいただくということをしているので、時間帯をずらして出勤しているが、11時間という保育時間があるが、なおかつ延長を希望される方がいる。特に保護者の方の勤務の体系でどうしてもという部分はあるので、そこも含めてこちらもしっかり対応しなければならないとは考えている。

委員：要望としてどんどん増えてきたらどういう対応をしていくのかと思う。

事務局：休日保育も含めて、きっといろんな要望がこれからは出てくるのではないかとことは十分考えている。

会長：これも保育士の確保の問題ですね。

事務局：すべてその問題である。

委員：休日保育をすると旗を揚げたらすぐ申込はあると思う。今はそこまでとっても現場が回らない。

事務局：将来は365日、ずっと開園しなければならないという状況にならないとも限らないと思う。

委員：老人のデーサービスは、土日休みとか、祭日休みとか、夜も、本当はデーサービスなのにニーズとして夜のお泊りも受け入れている。365日、一晩中、24時間対応している。笑ってられない(状況である)。多分、出てくると思う。その休日保育をやっている保育所に聞くと、希望者はいくらでもあっても、ある程度制限しないと、職員がローテーショ

ンを組めないと言っている。

事務局：放課後児童クラブもいっしょであるが、保育所は7時まで延長保育をやっているが、1年生にあがってクラブになると、クラブは6時半までである。7時までやってほしいという声がたくさんあるが、先ほど言ったように、クラブの指導員は時間給でお願いしているので、こちらも7時までやってくれないかと投げかけはしているが、みなさんも帰って夕飯の支度をしたりするほうがボリュームが多い人がたくさんいて、まだ7時までお預かりする環境は整えていない。本当にそういう声がある中で、今6時半までにさせていただいているのが実状である。そこも、こちらには声は届いているが、なかなか体制づくりが今のところ難しいというのが実状であるのでご理解いただきたい。

委員：うちも劣悪な環境だが、7時までやっているということでやむを得ず来ているという方が多い。とりあえず、ぼちぼちとやっていかないと。福井市から引越ししてきた人は、やっていただいているだけでもすごい、受け入れていただけるだけですごい、と言っている。福井市では、多分働いていても児童館や学童保育を受けられない方が、多分森田地区なんかでは多い。森田から引越ししてきた方は、うちに何人もいる。

委員：私の知り合いでも入れないという人がいる。

委員：抽選と言っていた。

委員：だから、仕事の体系を変えるか、仕事をやめるか、どうにかしないとダメ。それか、子どもに携帯を持たせて、仕方がないけどうちに置いておくか、選択をとってするしかないと言っている。

委員：こんなところでもいいのかと言っても、みていただけるだけで、抽選がないだけですごいと言っている。坂井市の方は誇っていただけて結構だと思う。

事務局：ただ、本当に幸いなことに事故とかが無いので、職員の体制も含めてそこも十分に注意していかないといけない課題だと思っている。

委員：福井市から来た人はみんな感謝している。坂井市はいい、抽選ではないんだと言っている。

事務局：なかなか、国が言うみたいに地域でみるというところまでは、まだまだたどり着けそうにない。

委員：いくら福井県が人口減少傾向と言われても、やっぱり足りないところは足りないところがいっぱいあったが、坂井市は幸いにして、こうしてクリアしていただいたのでありがたい。

会長：「保育園、落ちた」というような、そういう露骨なケースはないのか。

事務局：それはない。

委員：希望したところに入れないというのはある。

会長：保育の必要性をめぐって、何か保護者と少し見解の違いとかが起きたことはあるのか。

事務局：保育に関してはあまりないと思う。

会長：新制度になって、そのあたりで何かちょっと（あるか）。

事務局：新制度になって、両親だけの就労だけになったし、就労時間も、うちは48時間という一番少ない時間で設定させていただいたので、そこでもめるということにはなかった。

会長：それならよかった。それでは、次の議題にいてよろしいか。

#### イ. 基本施策について

＜事務局より資料3 - (1~8) 「H27計画進捗状況点検・評価表（基本施策）」にもとづき、評価を遅れおよびやや遅れとした事業について説明＞

##### [14] 休日保育について

委員：（託児所「くるみ」の利用について）通常の保育所を利用していたらダメだったね。

事務局：通常の保育所利用している時はダメだが、休日とかは利用してもらってよい。保育所をやっていない時間もよい。

##### [28] 「放課後子ども総合プラン」の推進について

委員：うちの児童クラブは、公民館を何回か使わせてもらっている。子どもキッチンとか、折り紙教室とか、お金の教室とかいろいろ出させてもらっている。無料でしてくれるので大変助かっている。

委員：ちなみに、私がおその関係をやっているのだが、なるべく夏休みとか冬休みとかに関しては、出かけていって、放課後教室の担当者も苦勞されているので、1時間でも2時間でも外で



見守っている。うちから講師を派遣して、音楽遊びとかゲーム遊びとかを指導者を派遣してやっている。そういうことしかできないのかなと（思っている）。難しいのは、児童クラブで預かっている子と、それ以外の子も入ってきてしまうので、それをどう両立させていくかが難しい。三国北小学校なんかは、結構たくさん子ども達がいるので派遣できるが、（子どもの）人数が少ない場合はちょっと難しい。なるべく、担当者がかわいそうなので、比重を軽くしてあげたいと思っているのが実状である。

委員：やっているところもあるということだ。

事務局：はい、3ヶ所ほどではやっている。

#### [58] 家庭教育推進（子育て講演会）事業について

委員：ちなみに、私がそれもやっているのだが、講演だけ聴いてもなかなか定着しない。だから、今、方向性としては、その下（の事業）に書いてある家庭教育支援員という方がいるのだが、その人達を中心に就学時健康診断のときに、親同士が子育てについて話し合う機会を作っているということで、講演ではなくて、そこで支援員がアドバイスしていくという形に変わってきている。まったく講演はしていない、逆にそういう形の方向性で増えてきているということである。だから、その下（の事業）の比重が、家庭教育支援員の方へ変わってきている。親同士が交流できる場を作って、子育てはどうしたらいいかを親同士がアドバイスしあう機会を作っているのだから、講演よりはその方がいいのではないかと、親からも評判がいい。

<事務局からの説明終了>

会長：ありがとうございます。たくさん事業があって、それぞれの評価をいただいたところだ。×と△をつけた以外のところも含めて、何かお気づきのところがあればお願いしたい。

会長：担当課が違うところはすぐに回答できないかもしれないが、何かお気づきのところがあれば、特に子育て支援課の所管のところは回答いただけると思うがいかがか。

会長：よろしいか。何か28年度に向けて数値目標を掲げて取り組むという事業は何かあるか。28年度の達成とか評価といった1年後のことを考えた時に、どういう風な評価をしていくのかということも、ちょっと見通したいと思うが、28年度について何か事業計画は出されるのか。それに対して、来年の今頃、同じような会議をひらくときに、どういう風に評価の観点をもっていけばいいのか。

事務局：昨年、この計画を策定させていただいた時に、基本的に5年間でどこまでという、全体

的に考えて組んでいるので、(計画時にも) お話していると思うが、中間年の3年目に見直しが必要になるかどうかも含めてだが、もうちょっと細かくチェックできればと(思っている)。2年目の28年度については、今年度と同じように全体の進捗に対してどこまで進捗(したか)という形で今はいいのか(と思う)。改めて新規で28年度に取り組むべきというのは、今はちょっとないかと思う。最後に話をしようと思っていたが、各委員の任期が2年となっていて、この3月をもって、一応委嘱させていただいた期間は満了するのだが、この子ども・子育て会議は当然5年間続けていくというものなので、次の2年、メンバーはちょっと変わるとは思うが、また依頼させていただく方もいるし、その中で、こちらの方も改めて検討すべきものがあるかどうかも含めて精査させていただいて、また協議させていただきたいと思っている。来年の今頃は、今のような形で今回×がついたところとか、どこまで伸びているかとかという形で、審査していただくというか、検討していただくということを考えている。

会長：わかりました。できることならば、今回やや遅れとか遅れの評価がついたところについては、ちょっとでも進めばいいということだ。

事務局：そのあたりについては、今日のご意見も含めて、また担当課も含めて、私達事務局が協議しながら、少しでも前へいけるようにやっていきたいと考えている。

会長：冒頭、部長から新年度予算の話があったが、予算がつかなくて事業が展開できないとかそういうことではないわけだね。

事務局：子育てに関しては、だいたいこちらの要求どおり財政との調整も進んでいるし、先ほど言った多子世帯に関しても、これまで3人目以降、就学前まで5万円の市内で使える商品券をお渡ししていたが、第2子も含めて、第2子は3万円だが就学前まで、少子化対策ということで、多子世帯も含めてだが対応させていただきたいと思っている。また、利用者支援ということで、あらゆる保育に関する相談なんかを受けれるような体制ということで、新年度から臨時で保育士2人を配置して相談支援を行っていくし、健康増進課でも保健師1人を雇いあげて、母子(保健)に関するいろいろな相談を受け入れる体制をとっていきたいと思っている。予算的には、ほぼ予算どおり、こちらが要求した予算を確保できていると思うが、やはり年々予算も増えてきているし、施設整備についても、今回保育園1園を大規模改修させていただき、民間移譲に向けて、28年度1園民間で保育園を建設していただくということになっているので、それらも併せると年々増加にはなるが、反対にいろいろご指摘いただいたように、内容の充実も含めて図っていききたいと考えている。

会長：他に何かあるか。

委員：こういうことをすると、とにかく目録的に全部あげて、全部達成しようということになって、急に教育なんかはよそにお願いするというのも考えて、効率的に税金を使っていくという考え方を推し進めていただければいい。ただ、なんでも増やせばいい、メニューを増やせばいいということではなくて、本当に利用しやすいものを作って、何が一番大事かということでピンポイント的に予算を配分していただく、そういうやり方をやっていかなないと、おっしゃるように予算が、なんでもかんでも子育てだったら通るといった時代でもないだろうから、そのへんよく精査していただいて、よそで協力してやれるものは、さっきの話ではないが、公民館の講座を利用していただいたり、ボランティアを派遣していただいたりして、自分のところで全部賄うのではなくて、組織を効率的に運用していくという発想でやっていただきたい。

会長：他にいかがか。次世代育成支援行動計画の時も多分同じだったと思うが、私はその時には関わっていないのでわからないが、特にこういう所管課がいくつもあるようなこういう大きい計画に対して、それぞれの課同士が、例えば全体をみるとか、意見を交換しあうとかいうような、坂井市全体としての何かそういうものをみるような機会というのはあるのか。

事務局：今のところ、はっきり言うとそういう具体的な機会はないのが現状である。ただ、少し総務の方でも、総合的な企画をする部門も必要だろうということが実際出ていて、まだ明確ではないが組織についてもそういう風な方向に動いていくようになると思う。特に、市が合併して10年を迎えるというような非常に大事な時期にさしかかってきたし、地域軸であったりとか、総合支所が支所が変わっていくということもあるので、全体的な計画を全体でみていくということがこれから出てくると思うので、当然そういう機会を捉えて整理していきたいと思っているし、部の中でも、例えば課題ですと子育てだけで解決できない問題が大変増えてきた。特に、相談に関しては、生活の問題とか障がいの問題とかということで、他の課に渡るものが非常に増えてきているので、当然、部の中でそういう調整会議とかは、これからやはり進めていかなければいけないと考えている。

会長：ぜひ、課同士の交流というか、情報交換を、これだけのいいことをして、全体をわかっていることがやはり大事なことかと思うので、ぜひ進めていただければと思う。

会長：他はいかがか。よろしいか。

#### 4. その他

会長：その他ということになっているが、各委員からご意見やご質問、ご要望等があったら、せっかくの会議の機会なのでお願いしたい。いかがか。それぞれご担当している分野からのご意見でも結構かと思うがいかがか。委員から何かあればどうぞ。

委員：ちょっと疑問に思っているのが、保育所のホームページは誰が更新しているのか。あまり更新されていない気がするが。

事務局：子育て支援課の担当の方で管理している。今回、ホームページがリニューアルされるということで、今後はこまめに更新していきたい。

委員：今、春江幼稚園で仕事させていただいているが、来年度からいよいよ幼保園に変わるのだが、説明会の時に（感じたが）やはり保護者の方はすごい期待している。幼稚園と保育所が1つに機能を持った幼保園である。5歳児は、就学前1年ということで集団登校をする。そういう風にわかっている人とぜんぜんわかっていない人がいる。保育所と幼稚園がいっしょに、先生は別なのか、教室はいっしょか、夏休みは保育所だけ来て幼稚園は休みなのでその間に差はひらかないのかとか、わからない人はわからないという現状は説明会の時に感じた。なんとか行政の人もいろんなことに丁寧に対応しながら、一つ一つわからないことにも答えてくれたと思うが、まだわかっていない人は現にいると思う。4月からは徐々にわかるように、幼児教育が保障されるように、職員一同がんばっていきたいと思っている。

会長：保護者のご理解がすすむといいですね。

委員：坂井市では、他の市と比べて子育て支援は充実しているとみなさん言われる。福井（市）ではやはり入れないとかそういうことが一部あるらしいが、私としては特に問題はないし十分満足しているが、中にはまだ困っている方もたくさんいると思うので、そういう方の声を一つ一つひろっていただいて、困っている人のサポートをしていただきたいと思います。

委員：私は子どもが幼稚園と小学校と2人いるので、先ほどおっしゃっていた就学前健診の時に保護者同士で相談できるということを経験しているのだが、やはりお母さん同士で話せるというのは、講演会を聴くのもいいが、実際話してみるとやはり不安が、私自身違う保育園から幼稚園にあげたりとか小学校に入れたので、本当に大丈夫なのかということをお母さんに聞けるということがよかったなと思うし、その事業が大事なんだ、講演会というのも大事だし、そういう保護者同士がコミュニケーションをとりながらできる、そうすると小学校へあがった時に不安も感じず、いっしょな思いで悩んでいる人がいるのだな（と思える）。私は、今3年生の子が1年生になる時に悩んでいて、今1年生になる子の就学前健診の時に、またいっしょなことで悩んでいるお母さんが入ってきた時に、「私もそうだった」と言うと、「良かった、悩みってあるんですね、少し安心しました」と言われた方がいたのでそういうのは続けてほしいと（思う）。あと、放課後児童クラブを利用させていただいて、補助していただいている先生はよくしてくれているし、製作とかもしていただいたりとか、映画に連れていってくれたりとかしてくれているので、そういうところはと

てもありがたいと思うので、今の場所とかの安全面だけ改良していただけたら、すごいもっと保護者の方が利用しやすくありがたいと思えると思うのでよろしくお願いいたします。

会長：今年の6月に、福井県の保育研究大会が坂井市で行われて、全体発表も坂井市がちょうどすることになっており、その研究グループが2班に分かれてまとめを行っているところだ。1つのグループは保護者にアンケートをとり、1つのグループは手遊びとかわらべうたを中心に実践を深めていくというような、それで全体としては「子育てって楽しい」というような思いを伝えたいというような取組で、今、研究成果をまとめているところだ。アンケートをとったグループの調査結果の中に、誰も相談する人がいないという人が1%いた。数としては1%だが、坂井市全体でみた時の1%は大きい人数だ。なるべくそういう方々が孤立しないような施策が大事だと思う。それは、就学前の段階であれ、小学校に入ってからのものであれ、孤立させないということをまず徹底をしなければならぬと思っているので、そういう意味で、漏れが無いように、隙間が無いようにすることが大事だと思う。先ほど、各所管課の連携が必要だというのは、そこが縦割りになりすぎると、多分情報が漏れてしまうということになりかねないので、そういうところをぜひ取り組んでいただくとありがたいと思っている。私からは以上だ。では、委員のみなさん全員から意見を伺ったということにさせていただくので、事務局の方にはよろしくお願いいたします。

## 5. 閉会